

# ほな、い歴史通信

第116号

2025(令和7).9.1

万国博覧会から世界へ〜太子町のチャレンジ

赤津康明

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに本年四月に開幕した大阪・関西万博は、残すところ約一ヶ月となった。日本で初めて開催された昭和四十五年（一九七〇）の大阪万博以来六回目となる大イベントの中の地方創生SDGsフェスに、太子町が茨城県内唯一の出席自治体として参加した。

今回の出展は、内閣府が「先導的な地方創生SDGsの取組を発信」というコンセプトを掲げて全国の自治体から参加を募集し、選抜されたものである。町は基幹産業である林業をもとに「地域産木材で魅力を高めるまち」をテーマにブースを展開した。太子の山々や豊かな森林の景色を映像などで再現し、その中で地元産の「八溝杉」で作ったコースターに、主に杉の木から抽出したアロマオイルを垂らし香りを楽しんでもらうワークショップを開き、来場者にアピールした。五月二十八日から六月一日の五日間で、太子町ブースへの来訪者は約六千人、ワークショップの体験者は予想を超える約八百人と大盛況であった。地元大阪や関西圏域はもとより関東や海外の方々から、「爽やかな杉の香りに誘われて立ち寄った」「今度は現地でこの雰囲気を感じたい」といった声が聞かれ、大きな手応えを感じることが出来た。

ここで、太子町と万博の関わりを振り返ると、百二十五年前に遡る。当時の日本は、日本茶の文化を世界に広めるために、各国で開かれる万博に茶を出品していた。佐原地区で五代にわたって続く茶業の創業者である吉成誠氏も、明治三十三年（一九〇〇）のパリ万博に地元産の茶を出品したのである。それを記す資料には「吉成誠氏佛国巴里に於て開かれたる萬国大博覧會へ自園自製の茶を出品して銅賞牌を受けたる」（塙泉嶺編「久慈郡郷土史」）とある。私は「M.YOSHIZAKI」と刻印された銅製のメダルを見せて頂いた。それは、遙か明治の時代に、太子町の茶が日本の特産品として認められていた証しだ、という深い感慨を抱いた。

近年、技術革新やグローバル化により、社会構造や生活様式は大きく変化してきた。そして、その過程では、自然と科学技術をバランスよく融合していくことが重要となってきた。私は六月に、神奈川大学法学部自治行政学科の学生に地方自治に関する特別講義を行った。その中で、太子町では、豊かな地域資源を生かした産業に、ICTなどの最先端技術を取り入れている事例を紹介した。例えば、林業においては、今まで人力で行っていた森林調査や苗木の運搬にドローンを活用することにより、効率性が格段に向上し、さらに生産性を上げることができたのである。

今回の万博において内閣府が強調したコンセプトのSDGsとは、国連が掲げた「持続可能な開発目標」を意味するが、経済や福祉、教育など十七項目にわたる目標をクリアするためには、それぞれの自治体が独自の強みや魅力を前面に広く打ち出していくことが重要である。

その意味でも今回の大阪・関西万博への参加は、太子町の未来へ向けて、大きな弾みとなり、足跡となったであろう。

（太子町副町長）



## 近津神社の中田植

区分・種類 大子町指定無形民俗文化財（第二十二号）  
 指定年月日 平成二十六年九月二十四日  
 所在地 大子町大字下野宮一六二六  
 管理者 中田植保存会

中田植は、下野宮近津神社で毎年夏至の日に行われる田植祭です。夏至は二十四節気のひとつで五月の「中」に当たり、中田植の名称は田植祭が夏至に行われることに由来しており、今年は六月二十一日に行われました（写真）。

祭りは、神殿にて神事を行った後、田植神事に入ります。神田にしめ縄が張られ祭主（神官）による修祓の後、太鼓、笛、鼓の奏楽に合わせて田植歌の唱われるなかを、十五名の早乙女が神田に苗を植え付けます。早乙女は浅葱の襦袢に赤襷をかけ、赤いもんぺをはき、すげ笠をかぶります。田植歌奏楽は神田わきに設けられた囃子舞台にて、中田植保存会により行われます。

（参考文献：大子町教育委員会編『大子町の文化財（改訂版）』（二〇一六）

（山崎仙一）

編集 大子町歴史資料調査研究会  
 編集人 藤井 達也（大子町歴史資料調査研究員）

大金 祐介（大子町歴史資料調査研究員）

小松崎 研（大子町歴史資料調査研究員）

山崎 仙一（大子町教育委員会事務局）

大金真理子（大子町教育委員会事務局）

発行 大子町教育委員会

久慈郡大子町大字池田二六六九番地

☎ 0295（72）1148

発行日 二〇二五年（令和七）九月一日